

千葉県山中で保護された犬に認められた

Hepatozoon canis 感染の 1 例松本佳奈¹⁾ 吉村久志^{1)†} 常盤俊大²⁾ 蕨 悠太³⁾ 岸本拓也^{1),4)}原田知享⁴⁾ 播谷 亮¹⁾ 山本昌美¹⁾

1) 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 病態病理学研究分野

(〒180-8602 武蔵野市境南町 1-7-1)

2) 日本獣医生命科学大学 獣医学科 獣医寄生虫学研究室

(〒180-8602 武蔵野市境南町 1-7-1)

3) 千葉県 開業 (やちまた動物クリニック: 〒289-1115 八街市八街 2-4)

4) 富士フィルム VET システムズ(株) 先進検査センター

(〒185-0013 国分寺市西恋ヶ窪 1-49-18)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/8/78_e95/_article/-char/ja

(2025 年 4 月 18 日受付・2025 年 5 月 12 日受理・2025 年 8 月 8 日公開)

要 約

千葉県の犬で認められた *Hepatozoon canis* 感染について報告する。症例は 2024 年 3 月に千葉県の山中で保護された年齢不詳の雌の雑種犬であり、乳腺腫瘍切除に伴い摘出された鼠径リンパ節において、病理組織学的検査により偶発的に *Hepatozoon* 属のメロントが検出された。また、血液塗抹標本では好中球細胞質内にガモントが認められ、さらに 18S rRNA 遺伝子解析により *H. canis* と同定した。臨床的には異常所見を認めなかったが、本症例は国内で従来報告がなかった関東地方への本原虫の分布拡大を示唆する。したがって今後は、以前から流行地域とされている地域以外においても犬の原因不明の発熱や貧血を認めた際には、鑑別診断の一つとして本原虫感染症を考慮する必要がある。また、本原虫の伝播に関与するマダニの種の特異性、地域分布、野生動物を含めた疫学的調査の必要性が示唆される。

——キーワード：千葉県、犬、*Hepatozoon canis*。

----- 日獣会誌 78, e95～e99 (2025)